

〈事業概要〉

(1)非福祉系大学生向け福祉出会い創出事業(一般社団法人 FACE to FUKUSHI)

本事業では、福祉系大学以外の学生で、福祉と親和性の高い領域(農業、まちづくり、教育、経営、心理など)に関心ある大学生に向けて、福祉の仕事の可能性を認知する機会を提供し、福祉・介護領域の業界でも自らの関心領域に取り組める可能性を認知してもらいます。

具体的には、<〇〇 & 福祉>をコンセプトとし、非福祉系大学生が自らの〇〇を活かして福祉に取り組むことができるという、福祉の魅力・可能性を知ってもらうためのプログラムを提供します。すでに非福祉系大学生を新卒で採用し、そうした人材を多様な事業展開に活かしている社会福祉法人にも協力してもらい、学生への魅力ある働きかけを行います。

本事業では具体的に福祉への就職者を出すということを目的にして展開します。

(2)福祉・介護 BOOK 制作出版事業(社会福祉法人福祉楽団)

紙媒体としての雑誌、論考集を制作することで、洗練されたビジュアルを可能とし、ネットにはない記事や一過性ではないコンテンツを社会に流通させることが可能になります。また、紙媒体のほうが社会的に信頼されやすい傾向にあります。そうしたことをふまえて、次の出版物を制作しそれらを活用した事業を展開します。

「福祉・介護BOOK」

アパレルファッション雑誌のカスタムパブリケーションを利用して、「福祉・介護の仕事」をテーマにした雑誌を制作します。若者にとって身近な雑誌が福祉や介護の特集を組むことで、手に取り、内容を見てももらえる可能性が高まると同時に、紙媒体としての雑誌が家庭内に持ち込まれ、家族が目にする機会が生まれる可能性があります。

アパレルショップや通信販売のノベルティ同梱や、若者向け就職イベントでの配布、全国の高校に発送するなど、確実に若者に届く方法で配布するほか、このBOOKを使用しての大学等での出張講義を行います。

出版後、若年層を集めた出版記念イベントを開催します。

(3)大学におけるマイノリティ当事者との対話型講義事業(東京藝術大学)

マイノリティ当事者が、大学に直接赴き、学生と対話型の講義をすることで、マイノリティへの理解や、福祉の仕事の重要性を、身を持って感じられる機会をつくれます。

マイノリティ当事者には、認知症、ALS、虐待を受けた経験のある人、児童養護施設の退所者、精神障害者、盲ろう者、ユニークフェイス、強度行動障害の人などを想定し、毎週異なるマイノリティ当事者が授業の講師となって登壇します。学生とは対話を重視しながら進行します。連続して、講義を受けることで、多様性を知り、その背景に福祉があることを身体的に理解してもらう試みです。こうした経験を通じて、福祉や介護の仕事の本質的な理解を促し、福祉の仕事の魅力や奥深さを知ってもらうことができます。

マイノリティ当事者の講義は時に刺激的で、受講生には疑問が残ることもあります。こうした疑問や違和感をフォローするため、すでに東京大学、東京藝術大学、慶應義塾大学で行われている同様の講義を受講した人にチューターになってもらい、受講する学生とマイノリティ当事者の橋渡しを行います。

チューターは、講義後の「モヤモヤ感」の相談や、具体的な福祉のアルバイトや就職などのアドバイスができるような体制にしておきます。福祉現場の見学案内などを行うことも想定されます。年齢が近い人が、学生の身近なチューターとなることで相談しやすい体制をつくれます。

(4) 中高生と大学生の福祉ピアエデュケーション事業(一般社団法人 FACE to FUKUSHI)

福祉・介護の現場で活動している大学生が、少し年下の中高生に福祉教育を行うピアエデュケーションを実施します。大学生自身の福祉に対する学びを深めると共に、身近な存在からの授業を行うことで中高生の福祉・介護に対する理解を深めます。

年齢の近い大学生が授業を行うことで福祉を身近に感じてもらうことができると同時に、講義する大学生自身が他者に伝えるという経験を通して、福祉の仕事の意味や魅力の再確認を行い、福祉の仕事を選択する強い動機を形成することができます。

(5) アジア圏の若者向け介護情報発信 WEB 制作事業区分(社会福祉法人福祉楽団)

経済連携協定や技能実習生などの制度を活用して日本で働くことを考えているアジア圏の若者が基礎的な情報収集ができる WEB サイトを制作、運用します。

WEBサイトの制作、構築にあたっては、日本で外国人介護職員を受け入れている事業者や、アジア圏現地の若者の声を直接聞き、わかりやすく、ニーズに合ったものをつくります。

現在、必要と思われるコンテンツは

- ①「介護」の仕事がわかるテキスト、写真、動画
- ②働く場所の説明やイメージがわかるもの(特養や老健などの施設類型など)
- ③日本の在留許可の制度や、資格類型などの説明
- ④日本での社会保障制度(病院のかかり方や労災など)
- ⑤日本で働きはじめたあとの相談先(宗教施設情報や労働相談など)

を、①英語、②中国語、③ベトナム語、④タイ語、⑤インドネシア語の言語で制作予定です。

アジア圏の若者を対象とした日本の介護を多言語で発信する WEB サイトを構築することで、日本で働くことの魅力発信、生活の不安解消を図ります。

「日本で介護の仕事をしたい」というアジア圏の若者の後押しとなる WEB サイトをつくります。

〈運営体制〉

一般社団法人 FACE to FUKUSHI(幹事社)

社会福祉法人福祉楽団

東京藝術大学

〈お問い合わせ先〉

一般社団法人 FACE to FUKUSHI 担当: 岩本 恭典(いわもと きょうすけ)

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 1-3-1-4F-106

office@f2f.or.jp / 06-4799-0108